

三分間

THREE MINUTES

～現代における組織開発と人材育成を考える～

研修学

THEME テーマ

いよいよ働き方改革法施行！新時代の生産性向上の鍵とは？

■次は「生産性向上」と「人づくり」

いよいよ2019年4月から働き方改革法が順次施行となります。安倍晋三首相は日本経済の持続的成長に向けて、働き方改革とともに「生産性向上」と「人づくり」に取り組む姿勢を表明しています。働き方改革では、長時間労働の是正や、同一労働同一賃金の推進など、どちらかという国民の福祉に焦点が当てられた話を中心でした。もちろん、従業員が継続的に働き続けられるような環境を整えることは、持続的経済成長においても不可欠のものです。そこに新たに、「生産性向上」と「人づくり」というテーマが加わり、いよいよ攻めの姿勢で経済活動にドライブをかけていこうという姿勢が明らかになってきました。

MARCH

3

■「How」から考える生産性の向上

さて、生産性向上といえば、すぐ思い浮かぶのは「業務の効率化」という考え方ではないでしょうか。類似する仕事をまとめる、手順を変更してミスを減らす、ITで自動化を図る等、業務の効率化は過去からずっと取り組んできたものと思われます。これらは「どのように取り組むか」つまり「How」から考える生産性の向上といえます。しかし、「How」にばかりに注目してしまうと、思わぬところで足をすくわれることがあります。いくら効率的に業務がこなせるようになっても、そもそもその仕事自体に必要性が無くなってしまった場合、そこに投じた労力は無駄になる、ということです。今、従業員の貴重な時間をかけて取り組んでいる「改善活動」は、この先も本当に必要な仕事なのか、一度振り返る必要があるかもしれません。

■「Why」の発想による生産性向上

では、リーダーがメンバーを動かす上で必要となることは何か。それは、「なぜ」取り組むのか、という「Why」の発想です。なぜそれに取り組むことが必要だと考えたのかをメンバーと共有し、同じ意識でもって課題に立ち向かうことで、全員の力を効果的に使って大きな効果を得られるようになります。

これまでの日本の組織における生産性向上は、前よりも多く、より良くという「改善」の発想で行われてきました。しかし、変化の時代に突入した今、前例を疑い、そもそも論で考える発想で、生産性向上策を模索していくことが求められています。考える習慣とメソッドを身に付けた「人づくり」が、今の時代の「生産性向上」には欠かせないということではないでしょうか。

PICK UP おすすめ研修のご紹介

クリティカルシンキング研修～本質を見抜く力を養う

物事をありのまま受け入れるのではなく、現状を「疑う力」を実践していただく研修です。まずは「クリティカルシンキング」とはなにかといった知識を学び、ケースをもとにさらに自分の業務に置き換えて、日頃疑うべきことを確認し、解決策を検討していただきます。誰でも予習なしで受講でき、講義やワークを通して気づき、発見を生み出していくことができる人気プログラムです。



お問い合わせはこちら

 0120-800-225

 info_tokyo@insource.co.jp

インソースホームページ

インソース

検索

www.insource.co.jp



 insource